

11. 沖縄（地域別調査機関：（財）南西地域産業活性化センター）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	その他のサービス [レンタカー] (営業担当)	来客数の動き	・前月に引き続き、燃油サーチャージの影響で海外旅行から沖縄旅行に振り替えられている様子で、観光客の利用が好調に推移している。
	変わらない	コンビニ (エリア担当)	お客様の様子	・商品の価値・質にはこだわらず、弁当と飲料といった必要な物は買い、デザート等のプラス1品は控えるといった傾向は完全に固定化されている。
		通信会社 (店長)	販売量の動き	・新機種の発売により、販売量はやや増えているが、通常の新機種発売時に比べると少ない。
		観光名所 (職員)	来客数の動き	・11月の当施設の利用者数は、24日現在で前年同月比で105.7%となっており、来園者は修学旅行、一般団体等が中心である。この施設利用状況から、11月の沖縄県への入域観光客数も順調に推移している。
	やや悪く なっている	百貨店 (営業担当)	販売量の動き	・食品が堅調なことで、全店合計の来客数は前年実績に近い推移となっているが、衣料品、家庭用品では客数・客単価共に、前年と比べ減少しており、消費の減退が進行している。
		スーパー (販売企画担当)	お客様の様子	・特売のチラシ投入日には客数が増えて売上もアップしているが、その日以外は来客数と売上の減少が3か月前より顕著になっている。全体的には売上は前年比でマイナスである。特売日に安い商品を買いためする傾向も感じられる。消費者の生活防衛意識が強くなっている。
		衣料専門店 (経営者)	来客数の動き	・シーズンに関係無く、来客数が明らかに減っている。商店街も人通りが少なくなっていて、飛び込みの客や、雰囲気やその場の衝動買いをする客が少なくなっている。常連がいるので営業できている状況である。
		衣料品専門店 (経営者)	お客様の様子	・暖冬のせい、世の中の流れのせい、客の購買力が落ちている。
		通信会社 (店長)	来客数の動き	・冬の新商品が発売されたが例年ほど客数が増えず、新規の客も少ない。
		通信会社 (サービス担当)	お客様の様子	・販売方法の変化、ニュース、新聞等の景気悪化の報道などが要因と考えられるが、販売が思わしくない。
		ゴルフ場 (経営者)	来客数の動き	・需要が減少しているというのが現状であり、間違い無く景気は悪くなっている。
		悪く なっている	その他専門店 [楽器] (経営者)	販売量の動き
	その他飲食 [居酒屋] (経営者)		来客数の動き	・例年より来客数が30%減少している。観光客の来店が一段落しており、なおかつ地元客が平日ほとんど外食に出てこない。前月まで水曜日のノー残業デーは地元客も入っていたが、今月は全く駄目である。
観光型ホテル (商品企画担当)	来客数の動き		・11月の稼働率は前年より約6%減の66.4%となる見込みである。夏以降、受注が伸びない状況である。	
企業 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	窯業土石業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・前月に引き続き引き合い物件が販売実績につながり、やや増加している。
	変わらない	輸送業 (営業担当)	取引先の様子	・建設業関係は徐々に物量が回復している兆しもあるが、倒産する業者も目に付く。スーパー・コンビニ関係は出店なども重なり物量が増加、家電関係は横ばい、外食関係は減少気味となっている。
		輸送業 (代表者)	受注量や販売量の動き	・新建築基準法移行問題や不動産業者の倒産、建設資材の高騰に影響され民間工事は大変な低迷であるが、一地域を中心とした公共工事の土木関連が堅調で、生コンやアスファルト用砂、及び砕石の受注がある。
やや悪く なっている	建設業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・契約件数は減少気味で、受注単価は低下気味である。	

		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・従来は、首都圏ソフト開発会社の開発案件プロジェクトに係わり、その一部を沖縄に持ち帰っていたが、首都圏でも開発案件が減少しており、県内に持ち帰るほどではなくなっている。
	悪くなっている	会計事務所（所長）	受注価格や販売価格の動き	・スクラップの価格下落が目立つ。業者によっては早めに在庫を減らせたので、影響は少ないところもあるが、金の価格と連動する傾向があるので、しばらくは要注意である。
雇用 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	-	-	-
	変わらない	-	-	-
	やや悪くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・10月の新規求人数が2,454人、常用求人数が2,128人でそれぞれ前年同月比で24.5%、24%減少している。新規求人倍率は0.57倍、有効求人倍率は0.38倍でそれぞれ前年同月比で0.14ポイント、0.12ポイント悪化している。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	周辺企業の様子	・県外企業の数社より、次年度の採用について、採用人数の大幅な減少及び採用試験時期を先延ばしする通告を受けている。出向先企業からの仕事が無くなると予測しているとのことである。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・特に県外の求人が激減している。
	悪くなっている	求人情報誌製作会社（営業担当）	求人数の動き	・金融不安、円高の影響による、大手メーカーの製造減産と派遣・期間社員の削減により求人広告がほとんどストップしている。